SONY®

4-143-280-**03**(1)

ホームシアターシステム

取扱説明書

HT-FS3

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 **電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II　dts Digital Surround　AAC　HDMI

S-FORCE PRO FRONT SURROUND　S-master Digital Amplifier　BRAVIA Link　x.v.Color　DIGITAL MEDIA PORT

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

3～5ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
6ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

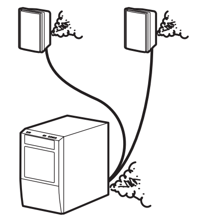
設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、
煙が出たら



➡

❶ 電源を切る

❷ 電源プラグをコンセントから抜く

❸ お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



⚠警告

火災　感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。

禁止

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないで下さい。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないで下さい。

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないで下さい。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。

接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。

指示

ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。

禁止

⚠注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。
また、本機を傷める原因となります。

禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

指示

コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

接触禁止

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。

必ず次の処理をする

指示

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

禁止

➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

禁止

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

禁止

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

指示

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

指示

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛足の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。（チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機のお手入れのしかた

キャビネットの汚れは、柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15〜30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

この取扱説明書について

この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。

商標について

本機はドルビー*[1]デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*[2]デコーダーを搭載しています。

*[1] ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

*[2] 米国パテントナンバー：5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS, Inc.の登録商標です。DTSロゴ及び記号はDTS, Inc.の商標です。© 1996-2008 DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。

本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMIロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

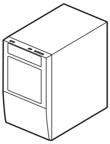
“プレイステーション”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

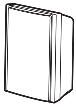
目次

同梱品を確かめる

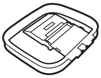
- サブウーファー（1）



- スピーカー（2）



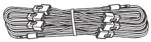
- AMループアンテナ（1）



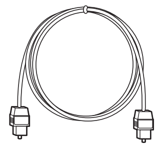
- FMワイヤーアンテナ（1）



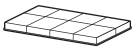
- スピーカーコード（2）



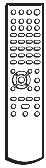
- 光デジタルコード（2.5 m）（1）



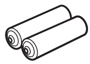
- スピーカーパッド (8)



- リモコン（RM-AAU118）（1）



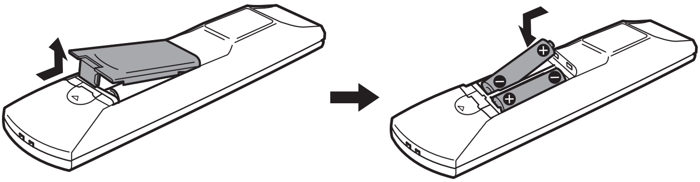
- 単3乾電池（2）



- 取扱説明書（本書）（1）
- 保証書（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。+と−の向きを合わせて、単3乾電池（付属）2個を入れてください。リモコンは本機のリモコン受光部（🅁）に向けて操作してください。

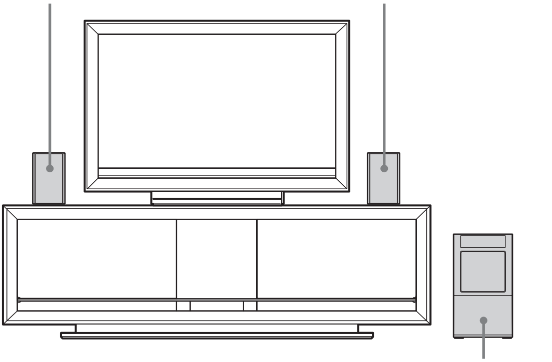


ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

本機を設置する

下図は本機とスピーカーの設置のしかたの例です。

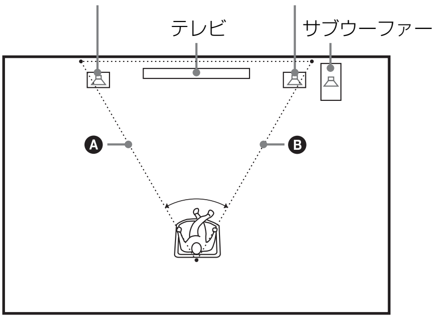


ご注意

- サブウーファーの背面にものを置いて、通風孔をふさがないでください。
- サブウーファーのグリルネットをふさがないでください。
- リモコンの信号を受信しやすくするために、サブウーファーはラックなどの前方に揃えて置くことをおすすめします。

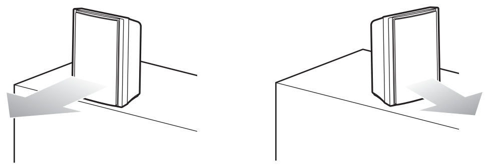
スピーカーを効果的に使用するには

左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離（Ⓐとⓑ）に設置してください（0.0 mから7.0 m）。

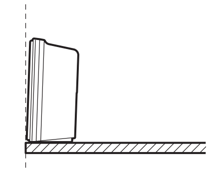


- 左右のスピーカーの間隔は、スピーカーとリスニングポジションの距離と同じにしてください（左右のスピーカーとリスニングポジションで正三角形を描くように）。
- 左右のスピーカーの間隔が0.6メートル以上となるように設置してください。
- スピーカーはテレビの前方に設置してください。スピーカーとの間に障害物を置かないでください。

• スピーカーは前方正面に向けて設置してください。斜めに向けて設置しないでください。



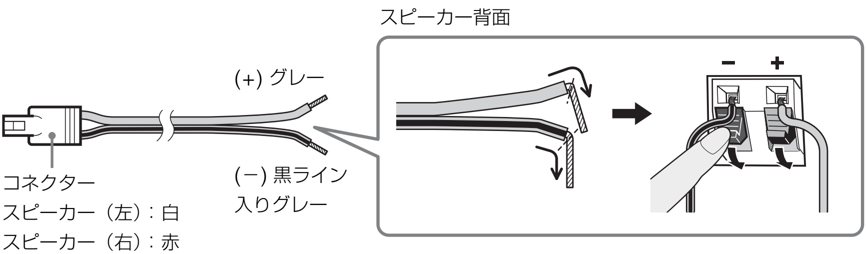
• 音の反響を防ぐため、スピーカーはラックなどの前方に設置することをおすすめします。



スピーカーコードをスピーカーにつなぐ

スピーカーコードのコネクターはスピーカーの種類に合わせて色分けされています。コネクターは本機背面にある同じ色のスピーカー端子へつないでください。

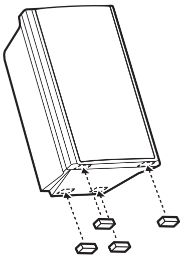
スピーカーコードはスピーカーの端子に正しく接続してください。グレーのスピーカーコードは+端子へ、黒いラインの入ったグレーのスピーカーコードは−端子へつなぎます。スピーカーコードの被覆部をスピーカー端子に挟み込まないようにつないでください。



次のページへつづく

平らな場所にスピーカーを設置する

スピーカーが振動で動かないように、左右のスピーカーの底面に付属のスピーカーパッドを貼ってください。



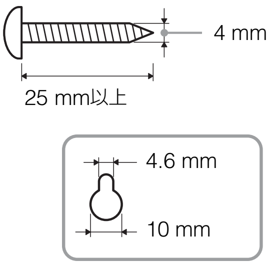
フロアスタンドにスピーカーを取り付ける

別売りのフロアスタンド（WS-FV11）を使用すると、より自由にスピーカーを設置することができます。詳しくはフロアスタンドの取扱説明書をご覧ください。

スピーカーを壁に取り付ける

下記の手順でスピーカーを壁に取り付けることができます。

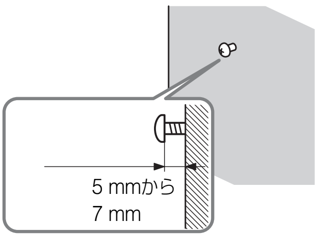
1 スピーカー背面の穴に合う市販のネジを用意する。



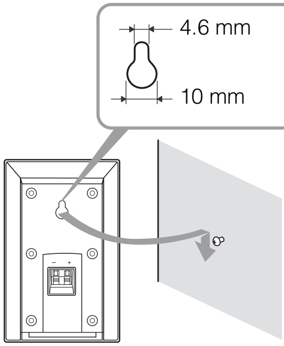
スピーカー背面の穴

2 壁にネジをとめる。

ネジが壁から5 mmから7 mm突き出すようにとめてください。



3 スピーカー背面の穴をネジにかける。



スピーカー背面

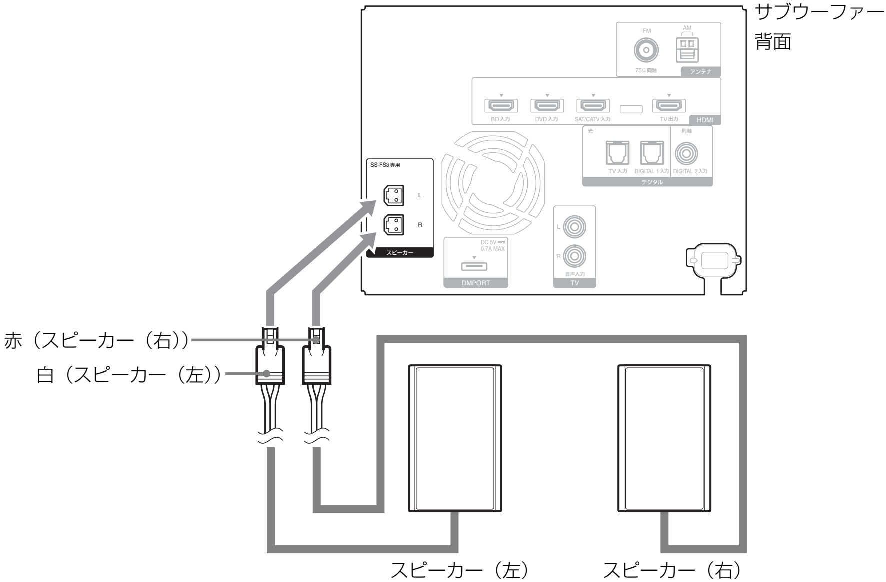
ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

次のページへつづく

スピーカーをつなぐ

スピーカーコードのコネクターはスピーカーの種類に合わせて色分けされています。コネクターは本機背面にある同じ色のスピーカー端子へつないでください。

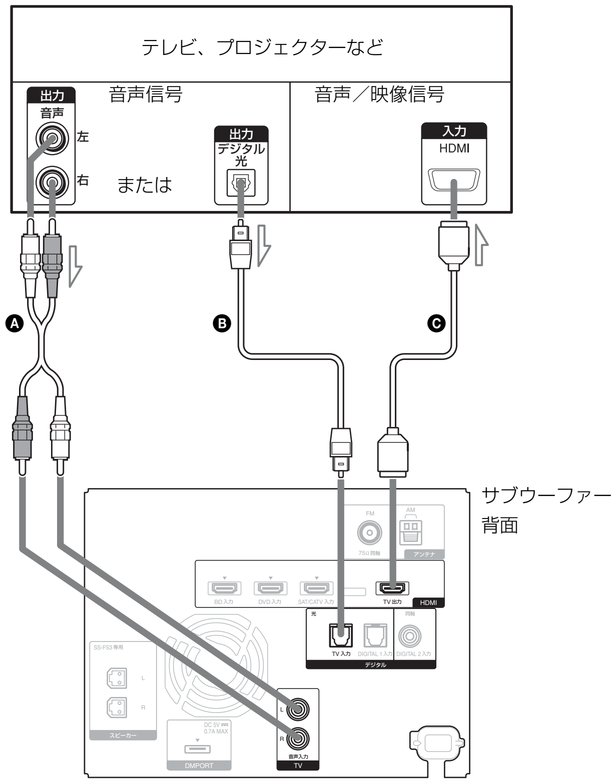


HDMI端子がある機器をつなぐ

HDMIケーブルを使って、他の機器とつなぐことをおすすめします。
HDMIを使うと、簡単に高音質と高画質が楽しめます。
HDMI接続をしたときに便利なHDMI機器制御については、「“ブラビアリンク”機能とは？」（34ページ）をご覧ください。
すべての機器を本機につないでから、本機の電源コードを壁のコンセントにつないでください。

テレビ、プロジェクターなどをつなぐ

テレビ、プロジェクターなどの音声を本機で聞くには、テレビ、プロジェクターなどの音声出力と本機の音声入力を、光デジタルコードまたはアナログ音声コードでつないでください。



A アナログ音声コード（別売）
B 光デジタルコード（付属）
C HDMIケーブル（別売）

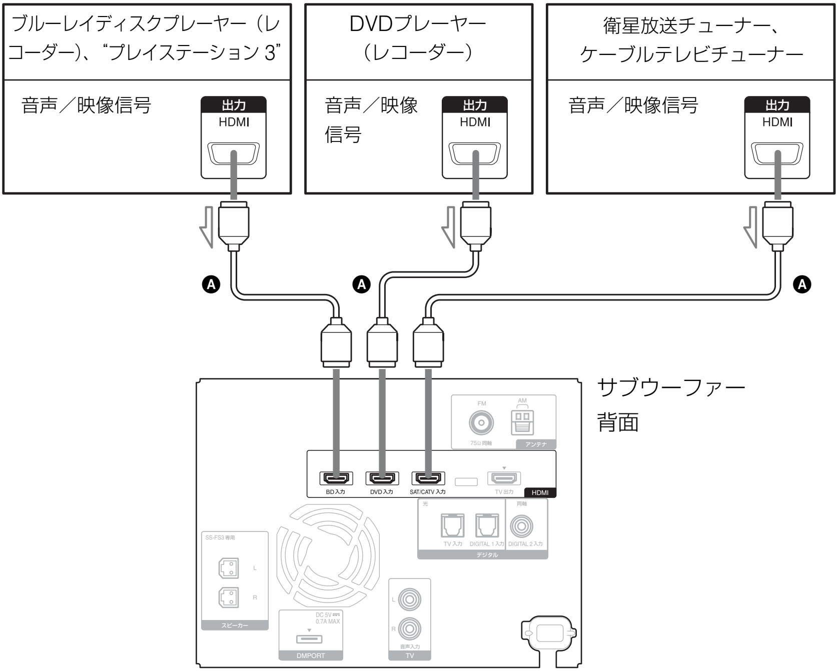
⇨：信号の流れ

次のページへつづく

ご注意

- テレビの音声出力を本機の光TV入力端子と音声入力端子に同時につないだ場合、光TV入力端子からの信号が優先されます。

ブルーレイディスクプレーヤー（レコーダー）、“プレイステーション 3”、DVDプレーヤー（レコーダー）、衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナーなどをつなぐ



AHDMIケーブル（別売）

：信号の流れ

HDMI端子の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用下さい。
  Standard HDMIケーブルの場合、1080pの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV出力端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。

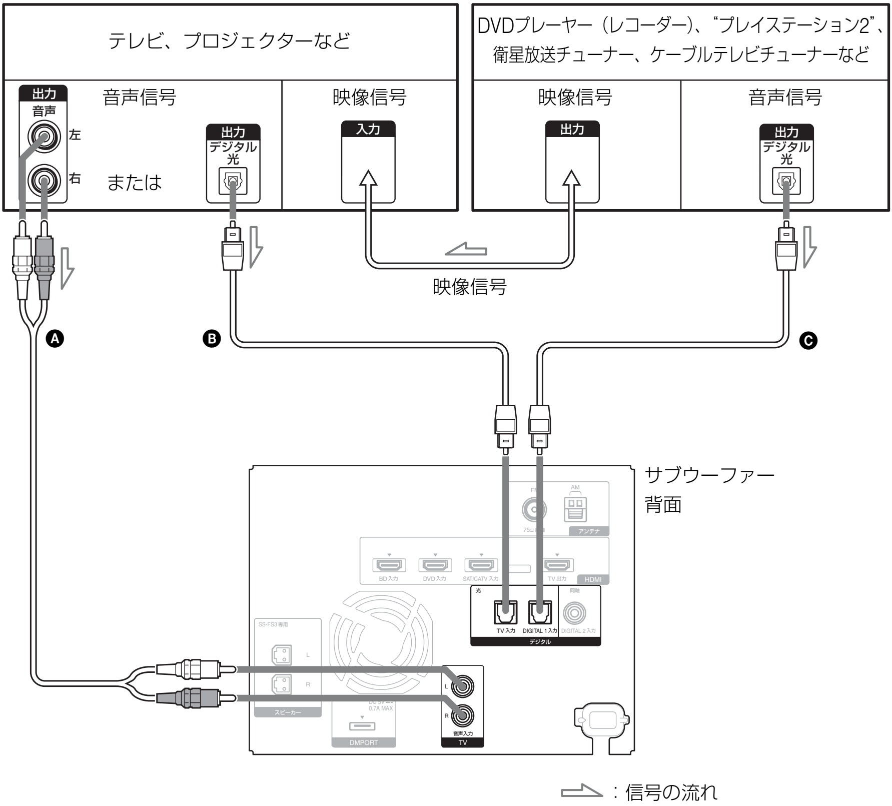
次のページへつづく

- TV、DIGITAL 1、DIGITAL 2、FM、AMまたはDMPORTの入力を選んだときは、前回選んでいた入力の映像が表示されます。
- 本機はHDMI Version 1.3で拡張された“x.v.Color”伝送に対応しています。

HDMI端子がない機器をつなぐ

HDMI端子のないDVDプレーヤー（レコーダー）、衛星放送チューナー、ケーブルテレビチューナー、“プレイステーション2”などは、本機の光DIGITAL1入力端子か同軸DIGITAL 2入力端子へつないでください。
光デジタル音声出力端子のない衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーは、本機の同軸DIGITAL 2入力端子へつなぎます。この場合、すべてのケーブルを接続する必要はありません。お使いの機器にあわせてアナログ音声コードをつないでください。
本機の電源コードは最後につなぎます。

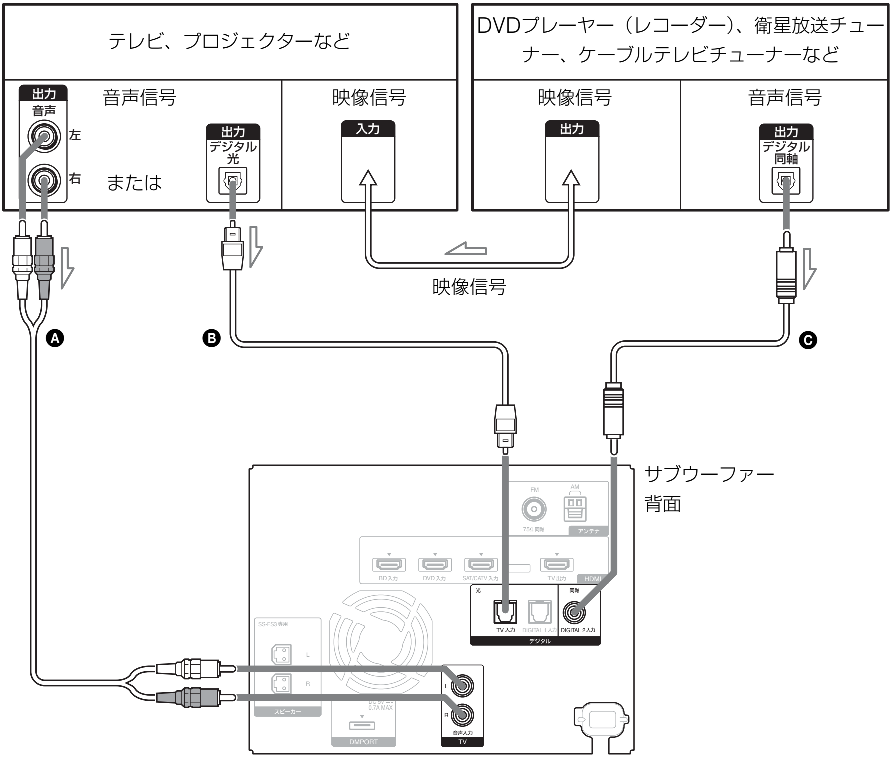
他の機器を光DIGITAL 1入力端子につなぐ



Aアナログ音声コード（別売）　B光デジタルコード（付属）
C光デジタルコード（別売）

次のページへつづく

他の機器を同軸DIGITAL 2入力端子につなぐ



：信号の流れ

A アナログ音声コード（別売）
B 光デジタルコード（付属）
C 同軸デジタルコード（別売）

ご注意

- テレビの音声出力を本機の光TV入力端子と音声入力端子に同時につないだ場合、光TV入力端子からの信号が優先されます。

つないだ機器の音声出力を設定する

つないだ機器の音声出力設定によっては、2チャンネルの音声フォーマットとしてのみ、音声が出力されることがあります。この場合、マルチチャンネルの音声フォーマット（PCM、DTS、Dolby Digital、AAC）で音声を出力するように、つないだ機器を設定してください。音声出力の設定については、つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。

アンテナをつなぐ

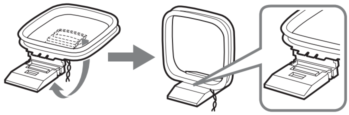
AMループアンテナをつなぐ

アンテナはAM放送を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1 ループ（　）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

2 組み立てる。

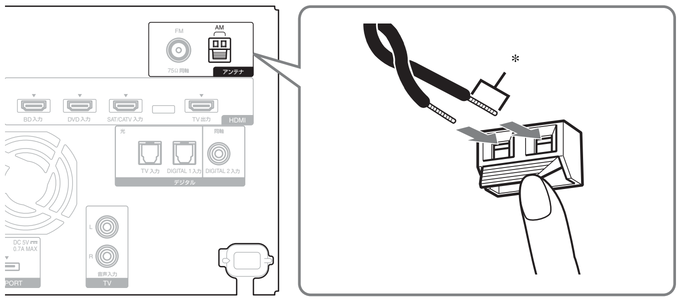
台を起こし、溝に差しこみます。



3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

レバーを指で押しながら、コードの（*）の部分を差し込んでください。
コードはどちらの端子にもつなぐことができます。

サブウーファー
背面



ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

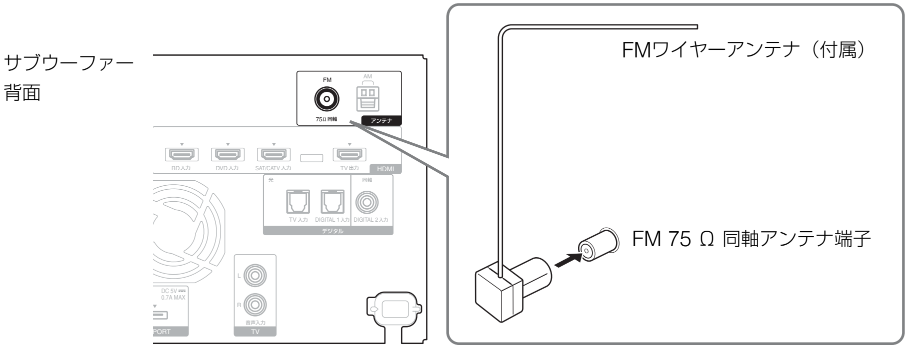
ちょっと一言

- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きや位置を受信状態の良い方向や位置へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかりつながれたことを確認する。

FMワイヤーアンテナをつなぐ

FMワイヤーアンテナをFM 75 Ω 同軸アンテナ端子につなぎます。

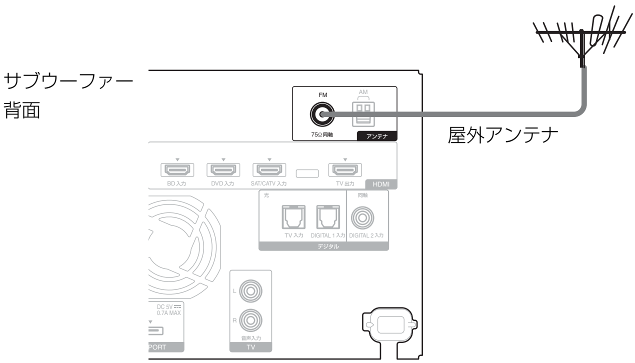


ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使わないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

ちょっと一言

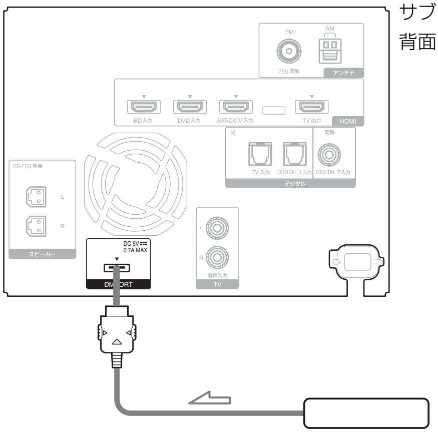
- FM放送の受信状態が良くないときは、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本機と屋外アンテナをつなぎます。



その他の機器をつなぐ

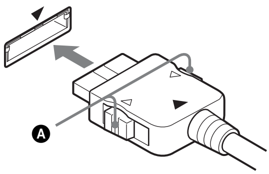
デジタルメディアポートアダプターをつなぐ

デジタルメディアポート端子（DMPORT端子）につないだ機器の音声を本機で楽しむことができます。
本機の電源コードは最後につないでください。



ご注意

- 本機の電源が入っているときは、デジタルメディアポートアダプターを抜き差ししないでください。
- デジタルメディアポートアダプターを差し込むときは、コネクターとデジタルメディアポート端子（DMPORT端子）の矢印が向かい合っていることを確認してください。デジタルメディアポートアダプターを取り外すときは、Ⓐを押しながらコネクターを抜いてください。

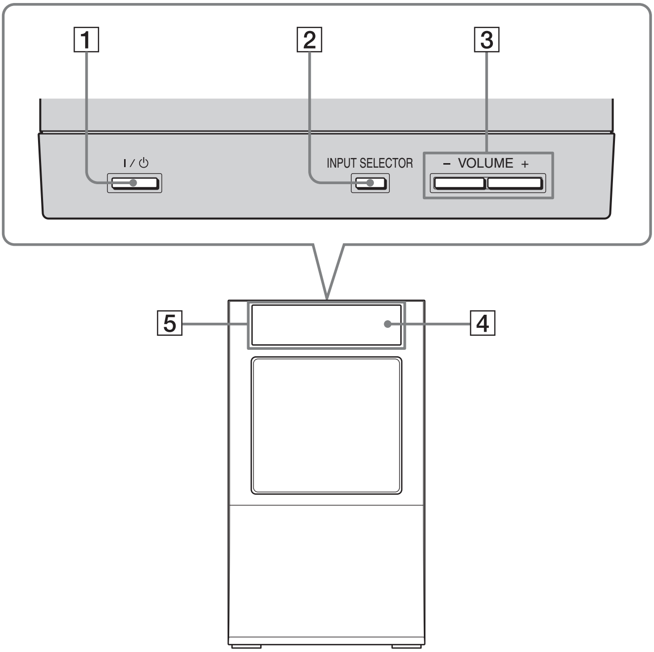


各部の名前と働き

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

サブウーファー（本機）

サブウーファー上面



1 **I/⏻（電源）ボタン**

本機の電源を入／切します。

2 **INPUT SELECTOR（入力切換）ボタン**

再生する入力ソースを選びます。
ボタンを押すたびに、入力ソースは次のように切り換わります。
TV → BD → DVD → SAT/CATV → DIGITAL 1 → DIGITAL 2 → FM → AM → DMPORT → TV…

3 **VOLUME（音量）＋／－ボタン**

本機の音量を調節します。

4 **（リモコン受光部）**

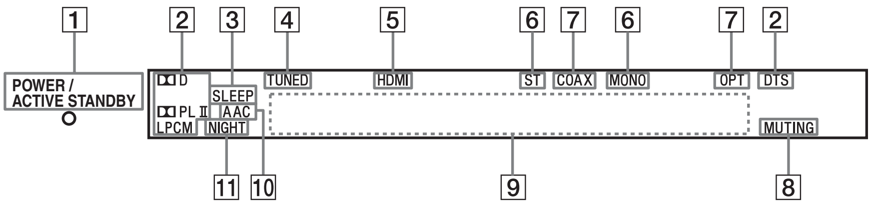
リモコンをここに向けて操作してください。

5 **表示窓**

本機の状態を表示します。

次のページへつづく

表示窓（サブウーファー）



1 POWER / ACTIVE STANDBY

以下のように点灯します。

緑：　電源が入っているとき。

消灯：　電源が切れているとき。

オレンジ：本機の電源は切れていて、HDMI機器制御機能はオン（入）のとき。

2 **音声フォーマット表示**

本機に入力されている音声フォーマットが点灯します。

3 SLEEP（54）

スリープタイマーを設定したときに点滅します。

4 TUNED（41）

ラジオ局を受信したときに点灯します。

5 HDMI（15、56）

HDMI対応機器を使っているときに点灯します。

6 ST／MONO（41）

ラジオを受信したとき、ステレオまたはモノラルのうち、現在使われている音声入力が点灯します。

7 COAX／OPT

COAX（同軸入力）またはOPT（光入力）のうち、現在使われている音声入力が点灯します。

8 MUTING

消音機能が有効になっているときに点灯します。

9 **メッセージ表示領域**

音量や選ばれている外部入力、入力された音声信号の種類などを表示します。

10 AAC（52）

AAC受信時に点灯します。

11 NIGHT（33）

ナイトモードのときに点灯します。

リモコン

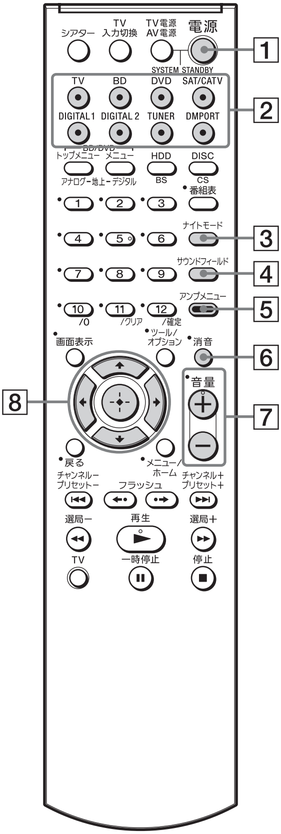
付属のリモコンを使って、本機を操作することができます。つないだ機器の操作については、44ページをご覧ください。

ご注意

- リモコンは、本機のリモコン受光部（ℝ）に向けて操作してください。

ちょっと一言

- 数字ボタンの5、および音量+ボタン、►ボタンには、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。



1 **電源ボタン**

本機の電源を入／切します。

2 **入力ボタン**

使用する機器を選びます。
工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるよう設定されています。お使いの機器に合わせて設定を変更することができます。詳しくは「リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する」（48ページ）をご覧ください。

3 **ナイトモード**

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます（33ページ）。

4 **サウンドフィールドボタン**

お好みのサウンドフィールドを選びます（32ページ）。

5 **アンプメニュー**

本機のメニューを表示します（49ページ）。

6 **消音ボタン**

消音します。

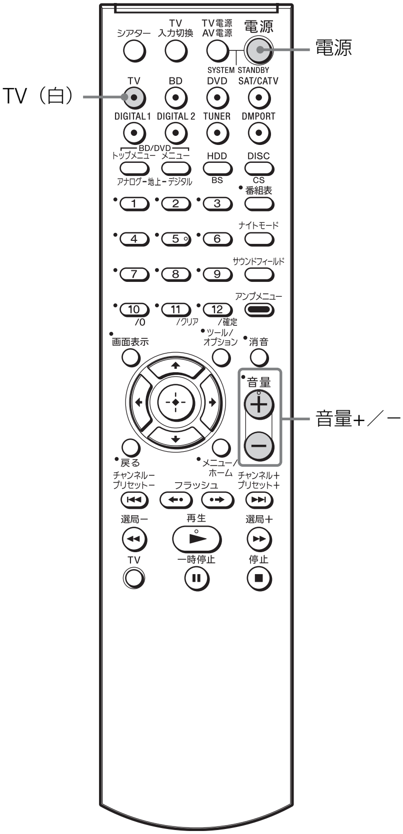
7 **音量＋／−ボタン**

音量を調節します。

8 **←、↑、↓、→、⊕ボタン**

←、↑、↓、→ボタンを押して設定を選び、⊕ボタンで決定します。

テレビの音声を聞く



1 テレビの電源を入れて、番組を選ぶ。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 本機の電源を入れる。

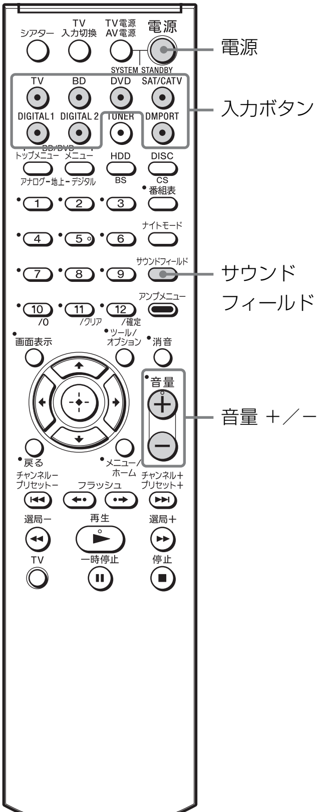
3 リモコンのTV（白）ボタンを押す。

4 音量＋／－ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。この場合は、テレビの音量を最小にしてください。

つないだ機器の音声を聞く



衛星放送チューナー／ケーブルテレビチューナーの音声を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 衛星放送チューナー／ケーブルテレビチューナーと本機の電源を入れる。

3 リモコンのSAT/CATVボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 音量＋／−ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言
- テレビのスピーカーからも音が出ていることがあります。この場合は、テレビの音量を最小にしてください。

ブルーレイディスク／DVD／“プレイステーション3”を楽しむ

1 テレビの電源を入れる。
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 ブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）、または“プレイステーション 3”と本機の電源を入れる。

3 リモコンのBDまたはDVDボタンを押す。

4 テレビの入力を切り換える。
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

5 ディスクを再生する。

次のページへつづく

ちょっと一言

- Dolby True HD、Dolby Digital Plus、DTS-HDに対応した接続機器で、これらの音源を再生しても、本機はDolby DigitalまたはDTSとして対応します。これらの高品質サウンドフォーマットを聞くとき、可能であればつないだ機器の出力設定をマルチチャンネルPCMにしてください。

デジタル端子（DIGITAL 1入力またはDIGITAL 2入力）につないだ機器を楽しむ

光デジタル接続をした機器を楽しむ時はDIGITAL 1ボタンを、同軸デジタル接続をした機器を楽しむ時はDIGITAL 2ボタンを押します。

1 つないだ機器と本機の電源を入れる。

テレビの電源を入れ、テレビの入力を切り換えると、つないだ機器からの映像信号がテレビ画面に表示されます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

2 DIGITAL 1またはDIGITAL 2ボタンを押す。

3 つないだ機器を再生し、本機の音量を調節する。

デジタルメディアポート（DMPORT）の機能

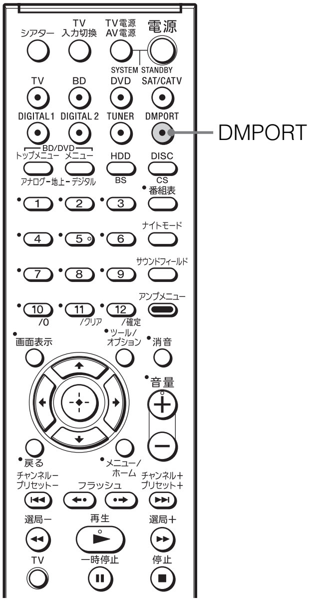
デジタルメディアポート（DMPORT）の機能を使って、ポータブルオーディオプレイヤーやコンピューターなどのソースを楽しむことができます。
デジタルメディアポートアダプターの接続については、「その他の機器をつなぐ」（24ページ）をご覧ください。

デジタルメディアポートアダプター（TDM-NW10、TDM-BT10）は別売りです。

ご注意

- デジタルメディアポートアダプター以外のアダプターなどをDMPORT端子につながないでください。
- リモコンで本機の電源を切ってからデジタルメディアポートアダプターをはずしてください。
- 電源が入っている状態で、本機にデジタルメディアポートアダプターをつないだり、はずしたりしないでください。

デジタルメディアポートにつないだ機器を楽しむ



1 リモコンのDMPORTボタンを押す。

2 つないだ機器を再生する。

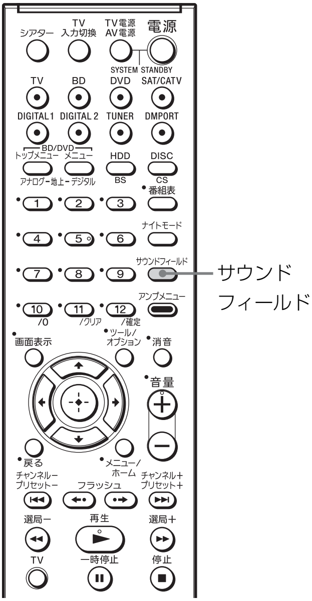
ちょっと一言

- MP3音声トラックやその他の圧縮された音声ファイルを聞くときは、サウンドフィールドのPortable Audioをおすすめします。表示窓の表示は「P. AUDIO」です（32ページ）。

サラウンド効果を楽しむ

サウンドフィールドを選ぶ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。



サウンドフィールドボタンを押す。

本機の表示窓に現在のサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールドボタンを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

STANDARD → MOVIE → DRAMA → NEWS → SPORTS → GAME → MUSIC → LIVE → P.AUDIO → STANDARD…



サウンドフィールドの種類

サウンドフィールド	効果
STANDARD	どんなソースにも幅広く対応します。
MOVIE*	セリフが聞き取りやすく、迫力のあるサウンドと臨場感が楽しめます。
DRAMA*	テレビドラマに適した音質で楽しめます。
NEWS*	アナウンサーの声が聞き取りやすい、クリアな音声です。
SPORTS*	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
GAME*	ゲームに適した迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。
MUSIC	音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVDに適した音質で楽しめます。
LIVE	ライブ会場の雰囲気を楽しめます。
P. AUDIO**	携帯用ミュージックプレーヤーで再生されるMP3などの圧縮されたソースに適しています。

* 入力ボタンで「DMPORT」を選択しているときは、表示されません。

**「DMPORT」を選択しているときのみ表示されます。

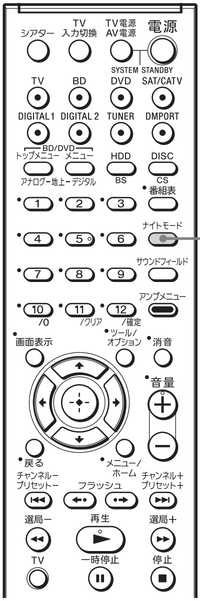
ちょっと一言

- 電源コードを抜いても、本機は各入力で最後に選んだサウンドフィールドを記憶します。
- 「CTRL:HDMI」が「ON」のときに、ソニー製テレビのリモコンのシアターボタンを押すと、サウンドフィールドが「MOVIE」に切り換わります（一部のソニー製テレビをのぞく）。

小さな音量で聞く

（ナイトモード）

小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。



ナイトモードボタンを押す。

ナイトモードボタンをもう一度押すとオフ（切）になります。

ちょっと一言

- AUDIO DRC（50ページ）を使うと、小さな音量でもドルビーデジタルを楽しめます。

“ブラビアリンク”機能とは？

HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、下記のように操作を簡単に行うことができます。

- ワンタッチプレイ：ブルーレイディスク／DVDプレーヤー（レコーダー）などの機器を再生すると、本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。
- システムオーディオコントロール：テレビの視聴中、音声の出力をテレビのスピーカーで行うか、本機のスピーカーで行うかを選ぶことができます。また、本機のスピーカーから音声を出力しているときに、テレビのリモコンを使って本機の音量の調整、消音ができます。
- 電源オフ連動：テレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も同時に切ることができます。
- オートジャンルセレクター：デジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り替わります。

“ブラビアリンク”は、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスク／DVDプレーヤー、AVアンプなどに対応しています。

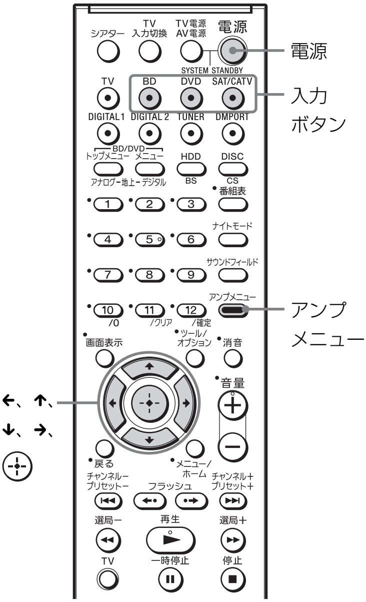
HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

ご注意

- 以下の機能は、業界標準規格に準拠した他社製品と接続した場合にも動作しますが、その動作についての保証はいたしかねます。
  - ワンタッチプレイ
  - システムオーディオコントロール
  - 電源オフ連動
- 以下の機能は、“ブラビアリンク”とその機能に対応した機器でのみ動作します。
  - オートジャンルセレクター
- つないだ機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”の準備をする

“ブラビアリンク”を使うには、本機とつないだ機器のHDMI機器制御機能をオン（入）に設定して下さい。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機やつないだ機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。



1 本機とテレビ、つないだ機器がHDMIケーブル（別売）でつながれていることを確認する。（各機器はHDMI機器制御機能に対応している必要があります。）

2 本機とテレビ、つないだ機器の電源を入れる。

3 つないだ機器の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力と本機の入力（BD、DVDまたはSAT/CATV）を切り換える。

4 テレビのHDMI機器制御機能をオン（入）に設定する。

本機とつないだ機器側のHDMI機器制御機能が同時にオン（入）に設定されます。設定中は「SCANNING」が表示窓に表示され、設定が完了すると、表示窓に「COMPLETE」が表示されます。

「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは

本機とつないだ機器のHDMI機器制御を個別にオン（入）に設定してください。

1 アンプメニューボタンを押す。
2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
3 ↑/↓を繰り返し押して「CTRL:HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。
4 ↑/↓を押して、「ON」を選ぶ。
5 アンプメニューボタンを押す。
   アンプメニュー画面表示が消え、HDMI機器制御機能がオン（入）になります。
6 HDMI機器制御機能を使用したい機器の入力（BD、DVDまたはSAT/CATV）を本機で選択する。
7 つないだ機器のHDMI機器制御をオン（入）にする。
   つないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機に再生機器を追加したり、再接続するときは

「“ブラビアリンク”の準備をする」や「「SCANNING」、「COMPLETE」が表示されないときは」」の手順をもう一度行ってください。

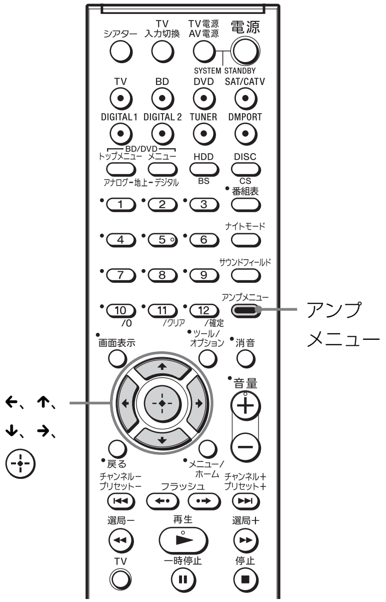
次のページへつづく

ご注意
- 本機のHDMI機器制御機能の設定中は、システムオーディオコントロール機能は作動しません。
- テレビの「HDMI 機器制御機能」によって、つないだ機器のHDMI機器制御機能を同時に設定できない場合は、つないだ機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビやつないだ機器の設定については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言
- お買い上げ時の本機のHDMI機器制御機能は、オン（入）に設定されています。

HDMI機器制御機能をオフ（切）にする

“ブラビアリンク”に対応していない機器や、HDMI端子のない機器をつないでいるときなどは、本機のアンプメニューでHDMI機器制御機能をオフ（切）に設定してください。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を押して、「CTRL:HDMI」を選び、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、「OFF」を選ぶ。

5 アンプメニューボタンを押す。
アンプメニュー画面表示が消えます。

ブルーレイディスクやDVDを楽しむ

（ワンタッチプレイ）

つないだ機器を再生する。

本機とテレビの電源が自動的に入り、HDMI入力に切り替わります。

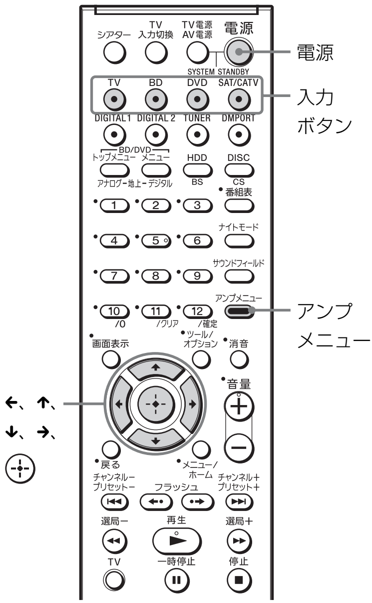
ご注意
- テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

ちょっと一言
- 本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、つないだ機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。このとき、POWER/ACTIVE STANDBYランプはオレンジ色に点灯しています。

テレビの音声を本機のスピーカーで楽しむ

（システムオーディオコントロール）

簡単な操作で、テレビの音声を本機のスピーカーから楽しむことができます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。



本機の電源を入れる。

本機のスピーカーから音声が出ます。本機の電源を切ると、テレビのスピーカーから音声が出ます。

ご注意

- 本機の電源を入れる前にテレビの電源が入っている場合、テレビの音声がしばらく途切れることがあります。
- お使いのテレビがシステムオーディオコントロールに対応していないと、この機能は働きません。

ちょっと一言

- テレビのリモコンを使って、本機の音量を調節したり、消音することができます。

デジタル放送のジャンルに応じて、サラウンド効果を自動的に切り換える（オートジャンルセレクター）

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビをお使いの場合のみ）。

1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「SOUND.FIELD」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**
- 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります。
- 「MANUAL」：サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

5 **アンプメニューボタンを押す。**
アンプメニュー画面表示が消えます。

次のページへつづく

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	NEWS
スポーツ	SPORTS
情報／ワイドショー	STANDARD
ドラマ	DRAMA
音楽	MUSIC
バラエティ	STANDARD
映画	MOVIE
アニメ／特撮	STANDARD
ドキュメンタリー	STANDARD
劇場／公演	MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	STANDARD
スポーツ（CS）	SPORTS
洋画（CS）	MOVIE
邦画（CS）	MOVIE
情報なし	STANDARDもしくは、前回のサウンドフィールドが保持されます。

ご注意

- 番組情報（EPG情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。

音量制限機能を使う

システムオーディオコントロールが作動中に、音声出力がテレビから本機に切り換わると、本機の音量によっては大きな音が出ることがあります。こうしたことを防ぐために、本機に切り換えた後の音量を制限することができます。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「VOL LIMIT」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して設定値を決める。

ボタンを押すごとに、設定値が切り換わります。

MAX ↔ 49 ↔ 48 ..... 2 ↔ 1 ↔ MIN

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- 音量制限機能は、HDMI機器制御機能がオン（入）のときのみ作動します。
- この機能は、音声出力が本機からテレビに切り換わるときには働きません。

ちょっと一言

- 設定値は、通常お聞きの音量より少し小さくすることをおすすめします。
- 設定値の大きさにかかわらず、本機とリモコンの音量＋／－ボタンを使って音量を調整できます。
- この機能を使用しない場合は、「MAX」を選択してください。

リモコンの入力ボタンを使う

HDMI機器制御機能がオン（入）のとき、入力ボタン（BD、DVD、SAT/CATV）は次のように作動します。

- BD、DVD、SAT/CATVボタン：押すだけで、テレビ入力も自動的に切り替わり、選んだ再生機器の映像をテレビで見ることができます。

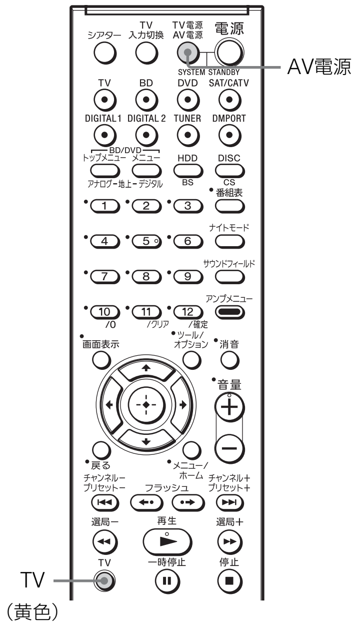
ちょっと一言

- 入力ボタンを押して、つないだソニー製機器を操作することができます。詳しくは「つないだ機器をリモコンで操作する」（44ページ）をご覧ください。

テレビと本機、つないだ機器の電源を切る

（電源オフ連動）

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も自動的に切ることができます。また、本機のリモコンでテレビの電源を切ったときも、本機とつないだ機器の電源を自動的に切ることができます。



TV（黄色）ボタンを押しながら、AV電源ボタンを押す。

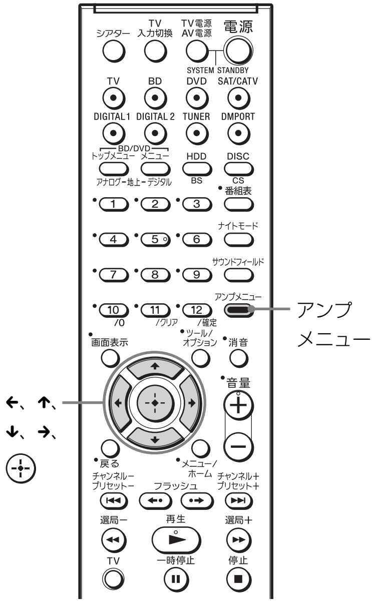
テレビと本機、つないだ機器の電源が切れます。

ご注意

- 本機やつないだ機器の状態によっては、つないだ機器の電源を切れない場合があります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

省電力機能を使う

“ブラビアリンク”に対応したテレビをお使いのときは、テレビの電源を切ると、HDMI信号の伝送を停止して、本機のスタンバイ時の消費電力を削減することができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SET HDMI」を表示させ、⊕または→を押す。

次のページへつづく

3 **↑/↓を繰り返し押して、「POWER SAVE」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

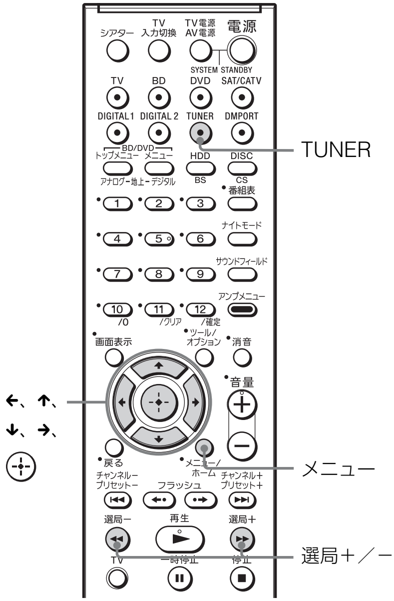
- 「ON」：スタンバイ時の省電力機能を使う。テレビの電源がオン（入）のときのみ、HDMI信号の伝送を行います。
- 「OFF」：スタンバイ時の省電力機能を使わない。本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、常にHDMI信号の伝送を行います。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

放送局を登録する（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局登録できます。よく聞く放送局は登録しておくと便利です。受信を始める前に、音量を最小にしてください。



1 TUNERボタンを押す。

TUNERボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

2 選局＋／－ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。

周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。表示窓に「TUNED」、「ST」（ステレオプログラムのとき）が点灯します。

3 メニューボタンを押す。

4 ↑/↓で表示窓の「Memory?」を選ぶ。

5 ⊕を押す。

プリセット番号が表示窓に表示されます。



6 ↑/↓でプリセット番号を選ぶ。



ちょっと一言

- 数字ボタンを押して、プリセット番号を選ぶこともできます。

7 ⊕を押す。

放送局が登録されます。



8 メニューボタンを押す。

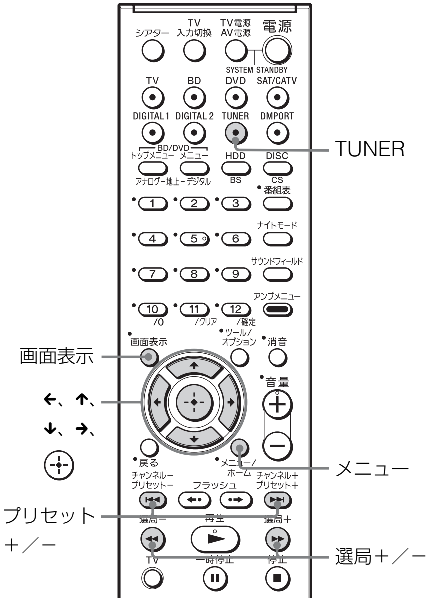
9 手順2～8を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順3から操作をする。

ラジオを聞く

先に「放送局を登録する （プリセット)」
（41ページ）で放送局を登録してください。



1 TUNERボタンを押す。

最後に受信した放送局が受信されます。
TUNERボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

2 プリセット＋／－ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。
数字ボタンを押して、登録した放送局の番号を選ぶこともできます。

3 音量を調節する。

ラジオを消すには

リモコンの電源ボタンまたは本機のI/⏻（電源）ボタンを押す。または他の入力ファンクションに切り換えます。

登録していない放送局を聞くには

手順2で手動または自動で受信します。
手動受信は、リモコンの選局＋または－を繰り返し押します。
自動受信は、リモコンの選局＋または－を押し続けます。自動受信は放送局を受信すると自動的に停止します。自動受信を止めるときは選局＋または－を押してください。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1 メニューボタンを押す。
2 ↑/↓で表示窓の「FM Mode?」を選び、⊕または→を押す。
3 ↑/↓で「MONO」を選ぶ。
表示窓に「MONO」が点灯します。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。
   - <u>STEREO</u>：ステレオ放送をステレオ受信します。
   - MONO：モノラル受信します。
4 ⊕を押す。
5 メニューボタンを押す。

ちょっと一言

- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きや位置を変えてみてください。

登録した放送局に名前をつける

登録した放送局に名前をつけることができます。これらの名前（「XYZ」など）は、放送局が選ばれたときに表示窓に表示されます。

文字は8字まで入力できます。

登録した放送局には、それぞれひとつの名前しか登録できません。

1 TUNERボタンを押す。

最後に受信した放送局が受信されます。TUNERボタンを押すたびに、「FM」と「AM」が切り替わります。

2 **プリセット＋/－ボタンを繰り返し押して、名前をつけたい放送局を選ぶ。**

3 **メニューボタンを押す。**

4 **↑/↓で表示窓の「Name In?」を選ぶ。**

TUNED ST
Name In?

5 **⊕を押す。**

6 **←、↑、↓、→で名前をつける。**

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力したときは

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←/→を押し、↑/↓で正しい文字を選ぶ。

7 **⊕を押す。**

表示窓に「Complete!」が表示され、放送局の名前が登録されます。

TUNED ST
Complete!

8 **メニューボタンを押す。**

ちょっと一言

• 画面表示ボタンを繰り返し押すと、表示窓で周波数を確認することができます。

表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本機の入力ファンクションが「FM」または「AM」のとき、表示窓に周波数を表示させることができます。

画面表示ボタンを押す。

画面表示ボタンを押すたびに、表示窓は次のように切り替わります。

① 放送局名*

② 周波数**

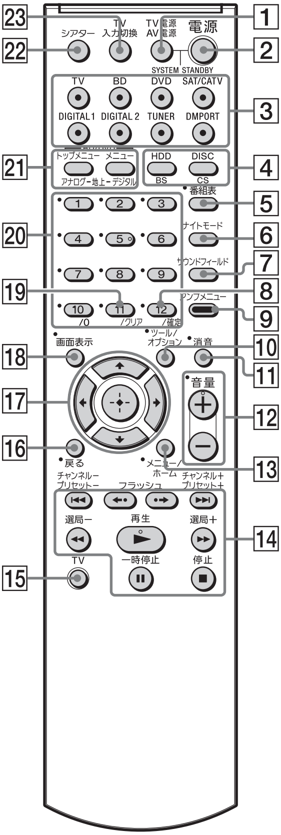
* 放送局を登録して、名前をつけているときに表示されます。

**数秒経過後に放送局名表示に戻ります。

設定

つないだ機器をリモコンで操作する

ソニー製の機器を本機のリモコンで操作できます。つないだ機器によっては、操作できない場合があります。そのようなときは、各機器のリモコンから操作してください。



共通する操作

リモコンのボタン	機能
2 電源（電源オン／スタンバイ）	本機の電源を入／切します。 2電源ボタンと1TV電源／AV電源ボタンを同時に押すと、本機と他のソニー製機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。 **スタンバイ時の省電力設定** 「CTRL:HDMI」で「ON」に設定し、「POWER SAVE」で「ON」に設定します（39ページ）。
3 入力ボタン	使用する機器を選びます。工場出荷時は、ソニー製機器の操作ができるように設定されています。 設定を変更するには、「リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する」（48ページ）をご覧ください。
7 サウンドフィールド	サウンドフィールドを選びます。
9 アンプメニュー	メニューを表示窓に表示させるときに押します（49ページ）。
11 消音	消音機能を有効にします。 もう一度11消音ボタンを押すと、音声が出力されます。
12 音量+/−	音量を調節します。
17 ⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

衛星放送チューナーを操作するには

ボタン	機能
8 確定	選択を確定します。
13 メニュー／ホーム	メニューを表示します。
14 チャンネル＋／－	チャンネルを切り換えます。
選局＋／－	放送局を選局します。
17 ⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
18 画面表示	テレビ画面に衛星放送チューナーの情報を表示します。
19 クリア	文字入力を間違えたときに、取り消すことができます。

DMPORT（デジタルメディアポート）を操作するには

ボタン	機能
14 ⏮/⏭	前または次のトラックを再生します。
◀◀/▶▶	早戻しまたは早送りをします。
▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。

つないだ機器を操作するには

1 入力ボタン3 (TV、BD、DVD、SAT/CATV）を押して操作したい機器を選ぶ。
選んだ入力ボタンに登録された機器が操作できるようになります。

2 次の表を参照して、操作する。

共通する操作

ボタン	機能
1 TV電源 AV電源（電源オン／スタンバイ）	本機のリモコンで操作ができるソニー製のテレビまたはオーディオ、ビデオの電源を入／切します（48ページ）。 2電源ボタンと1TV電源／AV電源ボタンを同時に押すと、本機と他の機器の電源を同時に切ります（システムスタンバイ）。
8 確定	選択を確定します。
20 数字ボタン	チャンネルやトラックを数字で選びます。
17 ⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

テレビを操作するには

黄色の印刷や黄色の点がついたボタンは、15 TV（黄色）ボタンを押したまま、それぞれのボタンを押して操作してください。

ボタン	機能
4 CS	110度CSデジタル放送に切り換えます（ボタンを押すたびにCS1／CS2に切り替わります）。
BS	BSデジタル放送に切り換えます。
5 番組表	地上デジタル放送で番組表を表示します。
10 ツール／オプション	さまざまな視聴オプションの設定やソースや再生画面に応じた調整をします。
11 消音	消音します。
12 音量＋／－	音量を調節します。
13 メニュー／ホーム	基本の操作を一覧表示します。

次のページへつづく

ボタン		機能
14	チャンネル+／−	チャンネルを切り換えます。
16	戻る	ひとつ前の表示画面に戻ります。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
18	画面表示	テレビ画面上に情報を表示します。
20	数字ボタン	チャンネルを選びます。8確定ボタンを押すとすぐに切り換わります。12以上のチャンネル番号を入力するときは、2桁、3桁目をすばやく押します。
21	地上デジタル	地上デジタル放送に切り換えます。
	地上アナログ	地上アナログ放送に切り換えます。
22	シアター	シアターボタンに対応したソニー製テレビにつないでいる場合、映画に適した設定を自動的に行ないます。 また、本機とテレビをHDMI接続して、HDMI機器制御機能がオン（入）の場合、自動的に本機の音声出力に切り換えます。
23	TV入力切換	入力を切り換えます。

ブルーレイディスクレコーダー／DVDレコーダーを操作するには

ボタン		機能
4	HDD	HDDを選びます。
	DISC	ディスク（ブルーレイディスク／DVD）を選びます。
13	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
14	⏮	チャプターをスキップします。
	フラッシュ ⬅•	現在、または録画した番組を見ている間にジャンプで前に戻ります。
	フラッシュ •➡	録画した番組を見ているときにジャンプで先に送ります。
	⏭	次に再生可能なチャプターにジャンプします。
	◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
	▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
21	BD/DVDメニュー BD/DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。

ブルーレイディスクプレーヤー／DVDプレーヤーを操作するには

ボタン		機能
13	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
14	⏮/⏭	チャプターをスキップします。
	フラッシュ ⬅・	ジャンプで前に戻ります。
	フラッシュ・➡	ジャンプで先に送ります。
	◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
	▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
21	BD/DVDメニュー BD/DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。

HDD／DVDコンボを操作するには

ボタン		機能
4	HDD	HDDを選びます。
	DISC	DVDを選びます。
13	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
14	⏮/⏭	チャプターをスキップします。
	フラッシュ ⬅・	ジャンプで前に戻ります。
	フラッシュ・➡	ジャンプで先に送ります。
	◀◀／▶▶	再生中のディスクの早戻し／早送りをします。
	▶（再生）／❚❚（一時停止、もう一度押すと通常再生に戻る）／■（停止）	再生を開始／一時停止／停止します。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。
21	BD/DVDメニュー BD/DVDトップメニュー	トップメニュー／ディスクメニューを表示します。

衛星放送（CSデジタル）チューナーを操作するには

ボタン		機能
5	番組表	番組表を表示します。
13	メニュー／ホーム	基本の操作が一覧表示されます。
17	⊕ ↑/↓/←/→	矢印ボタンを押して設定を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

ご注意

- 機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されている通りに動かない場合があります。
- 上記の説明は基本的な操作の一例です。つないでいる機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする場合があります。

ちょっと一言

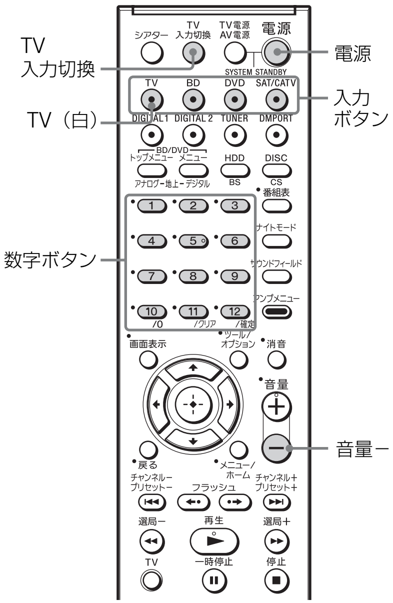
- 数字ボタンの5および音量＋、▶には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

リモコンの入力ボタンに登録された機器を変更する

お使いの機器に合わせて、入力ボタンの設定を変更することができます。
例：ブルーレイディスクプレーヤーをDVD端子につないだとき、DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるように設定します。
リモコンのTV（白）ボタンは、テレビ以外の機器に設定できません。

ご注意

- TV、BD、DVD、SAT/CATVの各入力ボタンに割り当てることができます。



1 **設定したい入力の入力ボタンを押し続ける。**
例：DVDボタンを押し続ける。

2 **次の表を参照して、設定したい機器のボタンを押す。**
例：数字ボタンの3を押す。
DVDボタンでブルーレイディスクプレーヤーを操作できるようになります。

お使いの機器をTV、BD、DVD、SAT/CATVボタンに対応させるには

機器	数字ボタン
DVDプレーヤー（リモコンモード：DVD1）	1
DVDレコーダー（リモコンモード：DVD3）[1]	2
ブルーレイディスクプレーヤー（リモコンモード：BD1）	3
ブルーレイディスクレコーダー（リモコンモード：BD3）[2]	4
TV[3]	5
TV[4]	6
衛星放送（CSデジタル）チューナー	7

1) お買い上げ時は、DVDボタンに登録されています。ソニー製DVDレコーダーはDVD1またはDVD3で操作できます。詳しくは、DVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
2) お買い上げ時は、BDボタンに登録されています。BD1およびBD3について詳しくは、ブルーレイディスクプレーヤーまたはブルーレイディスクレコーダーの取扱説明書をご覧ください。
3) TVボタンの設定によって操作内容が異なります。
4) CATVチューナーを登録する場合は、この設定をおすすめします。

リモコンに登録した設定を消すときは

リモコンの音量－ボタン、電源ボタンとTV入力切換ボタンを同時に押す。
リモコンの設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

アンプメニューの設定をする

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

LEVEL	SW LEVEL	–6, –5,…<u>0</u>,… +5, +6
	AUDIO DRC	MAX STD <u>OFF</u>
TONE	BASS	–6, –5,…<u>0</u>,… +5, +6
	TREBLE	–6, –5,…<u>0</u>,… +5, +6
AUDIO	A/V SYNC	<u>0ms</u>, 10ms, 20ms,… 190ms, 200ms
	DUAL MONO	MAIN/SUB <u>MAIN</u> SUB
SET HDMI[1]	CTRL: HDMI	<u>ON</u> OFF
	VOL LIMIT[2]	<u>MAX</u>, 49, 48,…2, 1, MIN
	SOUND.FIELD[2]	<u>AUTO</u> MANUAL
	POWER SAVE[2]	<u>ON</u> OFF
SYSTEM	DIMMER	ON <u>OFF</u>
	DISPLAY	<u>ON</u> OFF
	SLEEP	<u>OFF</u>, 10M, 20M,…80M, 90M

1) 詳しくは「“ブラビアリンク”機能」（34ページ）をご覧ください。
2) これらの設定は「CTRL:HDMI」が「ON」のときだけ表示されます。

1 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面を表示させる。

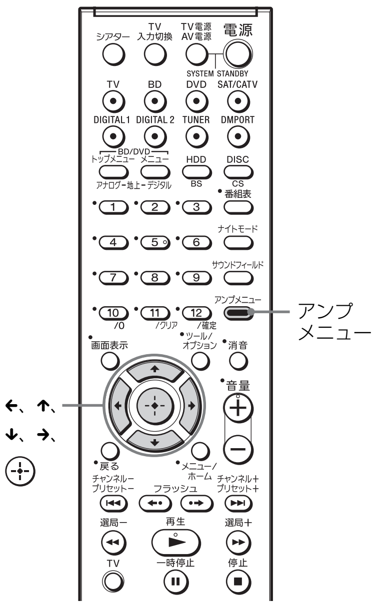
2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面の表示を消す。

これからのページはアンプメニューの各設定について説明します。

サブウーファーのレベルを設定する（SW LEVEL）

サブウーファーのレベルを設定することができます。



次のページへつづく

1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「SW LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、サブウーファーのレベルを設定する。**

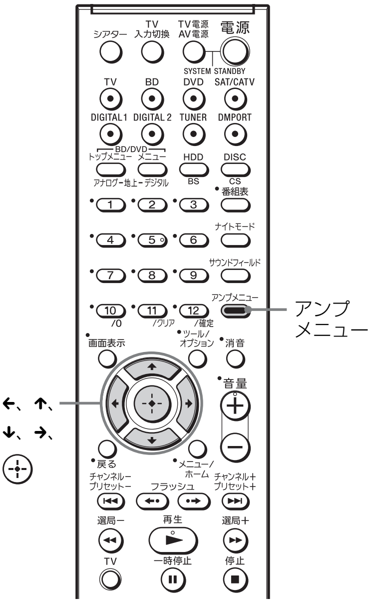
「–6」から「+6」まで、1ずつ設定できます。初期値は「0」です。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむ（AUDIO DRC）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。小さな音量で映画を楽しむときに便利です。AUDIO DRCはドルビーデジタルの音声にのみ対応しています。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「LEVEL」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「AUDIO DRC」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

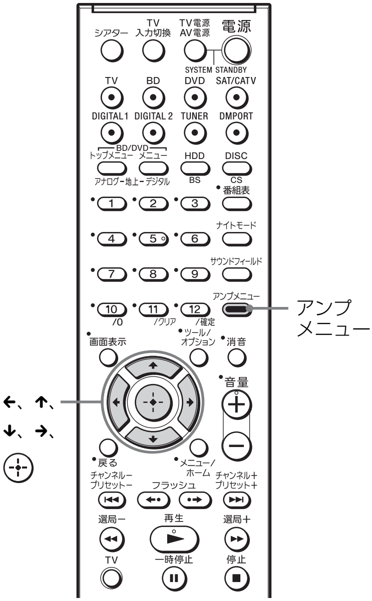
- 「MAX」：信号の幅を最大限に圧縮します。
- 「STD」：制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- 「OFF」：信号の幅は圧縮されません。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

音質を調整する（BASS、TREBLE）

音声の低域、高域のレベルを簡単に調整することができます。



1　アンプメニューボタンを押す。

2　↑/↓を繰り返し押して「TONE」を表示させ、⊕または→を押す。

3　↑/↓を繰り返し押して「BASS」または「TREBLE」を表示させ、⊕または→を押す。

4　↑/↓を押して、設定を選ぶ。

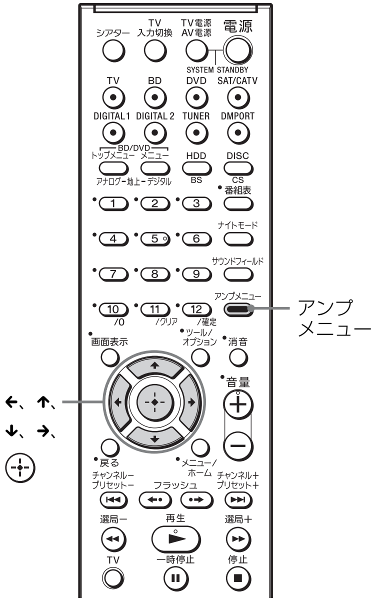
「–6」から「+6」まで、1ずつ設定できます。初期値は「0」です。

5　アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

映像の遅れに音声を合わせる（A/V SYNC）

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。



1　アンプメニューボタンを押す。

2　↑/↓を繰り返し押して「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。

3　↑/↓を繰り返し押して「A/V SYNC」を表示させ、⊕または→を押す。

4　↑/↓を押して、設定を選ぶ。

「0」から「200」まで、10ずつ設定できます。初期値は「0」です。

5　アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

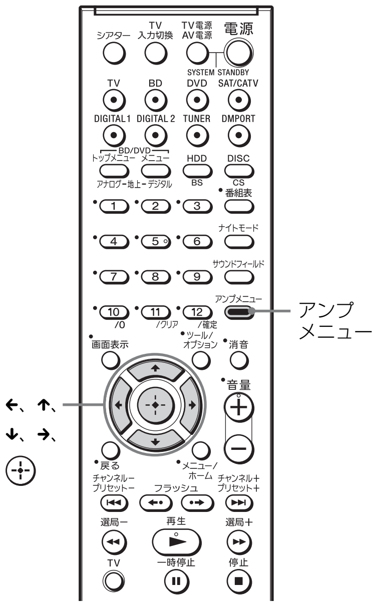
- この機能を使っても、完全に映像と合わせることができない場合があります。

次のページへつづく

- この機能は同軸入力、光入力およびHDMI入力のDolby Digital、DTS、MPEG2-AAC、リニアPCM（2ch）に働きます。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ（DUAL MONO）

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、次の操作を行ってください。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「AUDIO」を表示させ、⊕または→を押す。**

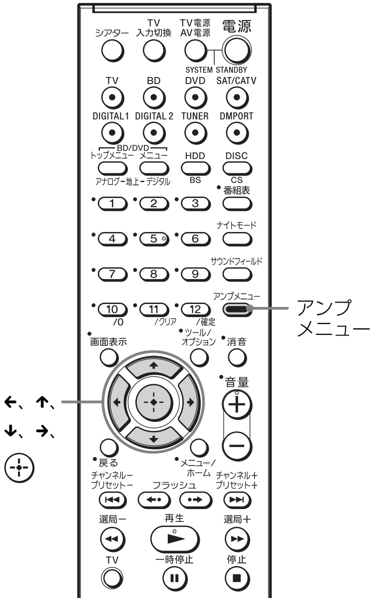
3 **↑/↓を繰り返し押して「DUAL MONO」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**
- 「MAIN/SUB」（主／副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
- 「MAIN」（主音声）：主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）：副音声のみを再生します。

5 **アンプメニューボタンを押す。**
アンプメニュー画面表示が消えます。

本体表示の明るさを調節する（DIMMER）

表示窓の明るさを2段階で調節することができます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「DIMMER」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

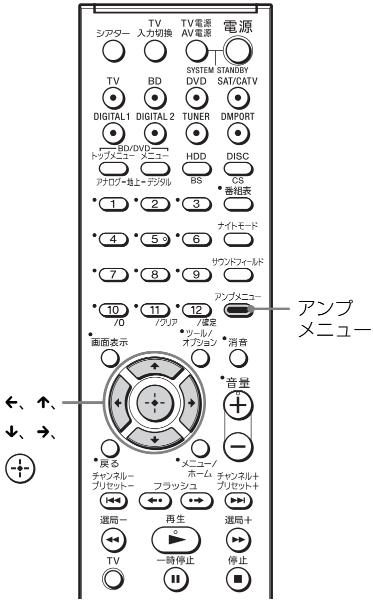
- 「ON」：表示窓の明るさが暗くなります。
- 「OFF」：通常状態。

5 **アンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

表示窓の設定を変える（DISPLAY）

表示窓の設定を変更することができます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **↑/↓を繰り返し押して「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。**

3 **↑/↓を繰り返し押して「DISPLAY」を表示させ、⊕または→を押す。**

4 **↑/↓を押して、設定を選ぶ。**

- 「ON」：常時、表示窓を点灯します。
- 「OFF」：本機を操作したときに、数秒間表示窓を点灯します。

ご注意

- 「DISPLAY」が「OFF」に設定されていても、PROTECT状態のときは、表示窓は常時点灯します。

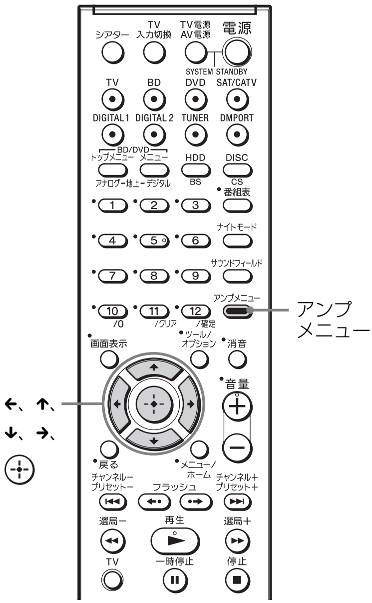
次のページへつづく

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

スリープタイマーを使う（SLEEP）

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑/↓を繰り返し押して「SYSTEM」を表示させ、⊕または→を押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して「SLEEP」を表示させ、⊕または→を押す。

4 ↑/↓を押して、設定を選ぶ。

ボタンを押すごとに、設定時間が切り換わります。

OFF ↔ 10M ↔ 20M
↕ ↕
90M ↔ 80M 30M

5 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

ご注意

- スリープタイマーは本機にだけ適用されます。本機につないでいるテレビや他の機器には使えません。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

全般

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本機の表示窓に「PROTECTOR」と「PUSH POWER」が交互に表示される

I/⏻（電源）ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」が消えたら以下の項目を確認する。

→ 本機の通風孔がふさがっていないか確認する。
上記の項目を点検し、電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ ブルーレイディスクやDVDなどを再生しているときは、Dolby DigitalやDTSフォーマットの音声を選んでいるか確認する。

→ つないだ機器のオーディオ設定（音声出力設定）を確認する。

サラウンド効果が得られない

→ 他の機器の入力ボタン（TV、BD、DVD、SAT/CATV、DIGITAL 1、DIGITAL 2、TUNER、DMPORT）を押し、一度入力を切り換えてから、再生したい機器の入力ボタンを押して、本機に表示される音声信号の種類を確認する。音声信号の種類が「2.0ch」や「1.0ch」と表示されたときは、ステレオまたはモノラル音声のため、サラウンド成分が含まれていません。音声信号の種類が「5.1ch」などと表示されたときは、マルチチャンネル音声ですが、番組やディスクによっては、サラウンド成分が少ない場合があります。

→ サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理が働かないことがあります（32ページ）。

スピーカーから音が出ない、または音が小さい

→ 音量＋ボタンを押し、音量を確認する。

→ 消音ボタンや音量＋ボタンを押して、消音機能を解除する。

→ サウンドフィールドボタンを押して、現在のサウンドフィールドを確認する。

→ 音源によってはスピーカーの音響効果が、はっきりと目立たない場合があります。

→ スピーカーコードが正しくつながれているか確認する（14ページ）。

サブウーファーの音が出ない

→ ディスクによっては、スピーカーからしか音が出ないものがあります。

テレビの音声が映像より遅れる

→「A/V SYNC」が「10 ms」から「200 ms」のあいだに設定されているときは、「A/V SYNC」を「0 ms」に設定する（51ページ）。

つないだ機器

どの機器を選んでも音が出ない、または音が小さい

→ 本機とそれぞれの機器が正しくつながれているか確認する。

→ 本機とつないだ機器の電源がオンになっているか確認する。

次のページへつづく

選んだ機器から音が出ない

- ➔ つないだ機器が、本機の音声入力端子に正しくつながれているか確認する。
- ➔ つないだ機器と本機のコードが、端子の奥までしっかり差し込まれているか確認する。
- ➔ 本機でつないだ機器が正しく選ばれているか確認する。
- ➔ 音量が最大のときに、ディスクをつづき再生すると、音が出ないことがあります。このときは、音量を小さくしてから、本機の電源を切り、電源を入れてください。

音が途切れたり、ノイズが出る

- ➔「本機で対応するデジタル入力フォーマット」を確認する（59ページ）。

テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない

- ➔ 本機でテレビが正しく選ばれているか確認する。
- ➔ テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。
- ➔ テレビをオーディオ機器から離す。
- ➔ 対応フォーマット以外の映像信号が入力されると、画像が乱れることがあります。

HDMIに入力しているソースの映像が本機につないだテレビから出ない

- ➔ HDMI接続を確認する。
- ➔ つないだ機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ➔ High Speed HDMIケーブルをご利用下さい。Standard HDMIケーブルの場合、1080pの映像が正しく表示できない場合があります。

HDMI機器制御

“ブラビアリンク”を使用中、次のような問題が発生した場合は、以下の方法をお試しください。

HDMI機器制御機能が働かない

- ➔ HDMI接続を確認する（15ページ）。
- ➔ アンプメニューで「CTRL:HDMI」が「ON」に設定されていることを確認する。
- ➔ つないだ機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。
- ➔ つないだ機器のHDMI機器制御の設定を確認する。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ➔ HDMI接続を変更したときや、本機の電源コードを抜き差ししたとき、また、停電があったときは、「“ブラビアリンク”の準備をする」（35ページ）の手順を再度行ってください。
- ➔ HDMI機器制御機能に対応していない機器をテレビにつなぎ、その機器の入力をテレビで選んだ場合、本機が正しく動作しないことがあります。

本機とテレビの両方から音が出ない

- ➔ 本機またはテレビの音量を確認する。
- ➔ 本機の入力が正しく選択されているかを確認する。

本機とテレビの両方から音が出る

- ➔ HDMI機器制御機能がオフ（切）のときや、選んだ機器がHDMI機器制御機能に対応していないときは、本機またはテレビを消音する。

電源オフ連動機能が働かない

- ➔ テレビの電源を切ると、つないだ機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビに映像が出ない

- ➔ 本機のHDMI入力端子とHDMI出力端子を逆につないでいないか、確認する。

テレビ画面に、音声の出力方法が本機のスピーカーからテレビのスピーカーへ変更されました、と表示される

→ デジタルメディアポートが選ばれていると、システムオーディオコントロール機能は働きません（37ページ）。

本機が電源スタンバイのとき、テレビに映像と音声が出ない

→ 本機が電源スタンバイのときに、テレビへ出力される映像と音声は、本機の電源を切る前に最後に選ばれていたHDMI入力の信号です。視聴したい機器が、最後に選ばれていたHDMI入力と異なる場合は、機器の再生を開始して、ワンタッチプレイを実行するか、本機の電源を入れてHDMI入力を選び直してください。

→ “ブラビアリンク”に対応していない機器を接続している場合は、アンプメニューで「POWER SAVE」が「OFF」に設定されているか確認する（39ページ）。

その他

リモコンが機能しない

→ リモコンを本機のリモコン受光部（R）に向けて操作する。

→ リモコンとリモコン受光部との間に障害物を置かない。

→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り替える。

→ 本機のリモコンの入力ボタンを押して、操作したい機器を選ぶ。

音声の出力方法をテレビのスピーカーから本機のスピーカーに変更したときに、音量が下がる

→ 音量制限機能が働いています。詳しくは、「音量制限機能を使う」（38ページ）をご覧ください。

これらの処置をしても正常に動作しないときは―リセット

本機のボタンを使って、下記の手順で操作します。

1 I/⏻（電源）ボタンを押して電源を入れる。

2 本機のINPUT SELECTORボタン、VOLUME－ボタン、I/⏻（電源）ボタンを同時に押す。

表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

その他

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」（55ページ）の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-FS3
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

フォーマット	対応／非対応
Dolby Digital	○
DTS	○
MPEG2-AAC	○
リニアPCM（2ch）＊	○
リニアPCM（5.1ch、7.1ch）＊（HDMIのみ）	○
Dolby Digital Plus	×
Dolby True HD	×
DTS-HD	×

＊ リニアPCMは、48 kHz以下のサンプリング周波数に対応します。

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA＊）
フロント部：100 W + 100 W、4 Ω
サブウーファー部：200 W、2Ω、100 Hz

＊ JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

入力端子（アナログ）
TV　入力感度：550 mV
インピーダンス：33 kΩ

入力端子（デジタル）
TV、DIGITAL 1　光
DIGITAL 2　同軸

HDMI部

コネクター　HDMI™コネクター
ビデオ入出力　BD、DVD、SAT/CATV：
640 × 480p、60 Hz
720 × 480p、59.94/60 Hz
1280 × 720p、59.94/60 Hz
1920 × 1080i、59.94/60 Hz
1920 × 1080p、59.94/60 Hz
720 × 576p、50 Hz
1280 × 720p、50 Hz
1920 × 1080i、50 Hz
1920 × 1080p、50 Hz
1920 × 1080p、24 Hz
オーディオ入力
BD、DVD、SAT/CATV：
リニアPCM (最大7.1ch)／Dolby Digital／DTS／AAC

チューナー部

回路方式　PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式
FMチューナー部
受信周波数　76.0－90.0 MHz（100 kHz間隔）
アンテナ　ワイヤーアンテナ 75 Ω、不平衡型
中間周波数　10.7 MHz
AMチューナー部
受信周波数　531－1,602 kHz（9 kHz間隔）
アンテナ　ループアンテナ
中間周波数　450 kHz

スピーカー（SS-FS3）

形式　フルレンジスピーカーシステム
バスレフ型
使用スピーカー
65 mmコーン型
定格インピーダンス
4 Ω
最大外形寸法（約）
102 mm × 163 mm × 77 mm
(突起部分を含む)（幅／高さ／奥行き）
質量（約）　0.55 kg

サブウーファー（SA-WFS3）

形式　サブウーファーシステム
バスレフ型
使用スピーカー
130 mmコーン型
定格インピーダンス
2 Ω
最大外形寸法（約）
212 mm × 374 mm × 364 mm
(幅／高さ／奥行き)
質量（約）　8.9 kg

その他

次のページへつづく

一般

電源	AC 100 V、50/60 Hz
消費電力	電気用品安全法による表示： 95 W HDMI機器制御 がオフ（切）のとき（スタンバイ状態のとき）: 0.3 W以下
電源出力 （デジタルメディアポート）	DC OUT：5 V、700 mA

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

AAC

BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

DTS

DTS社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）

パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格。映像と音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できる。デジタル画像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCPにも対応している。

PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しむことができる。

S-Force PRO Front Surround

ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができる。

S-Master

ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特長を備えている。

x.v.Color

“x.v.Color”とは、xvYCC規格に対応し、従来以上の広色域表現が可能な機器に付す名称としてソニーが提案している商標で、xvYCC規格とは、ビデオ映像信号の色空間の国際規格のひとつ。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できる。今までは表現できなかった鮮やかな花の色や、南国の海の美しい青緑色などを、より忠実に表現することが可能になる。

索引

ブラビアリンクガイドページ

ブラビアリンクの接続や対応機器などに関する情報は、下記ホームページで確認できます。
http://www.sony.jp/bravialink/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル ··········0120-333-020	フリーダイヤル ···········0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話 ··········0466-31-2511	携帯電話·PHS·一部のIP電話 ···········0466-31-2531 ※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in Malaysia

* 4 1 4 3 2 8 0 0 3 * (1)